

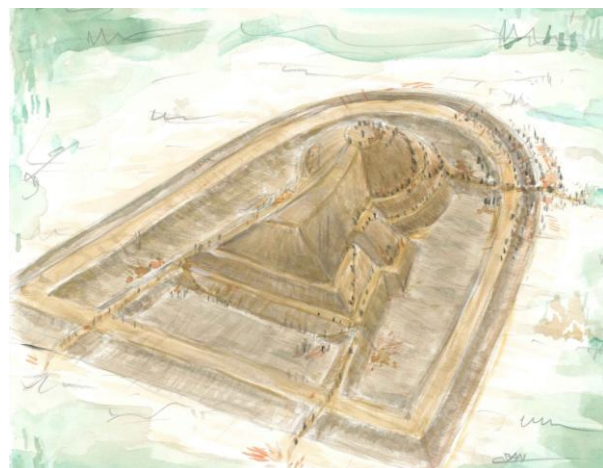
両宮山古墳
第4次発掘調査
速報

土でつくられた巨大古墳



墳丘の水面より上の部分

残っていた
墳丘第1段斜面



両宮山古墳は赤磐市穂崎・和田にある岡山県第3位の大きさの前方後円墳です。

現在古墳の濠（両宮池）は水をたたえています。古墳北部の濠はすでにうまって田んぼになっています。また、堤も江戸時代頃にかさ上げされ、ため池の水量を増しています。墳丘には樹木が生い茂り、その裾はため池の波浪によりかなり浸食されています。

古墳がつくられて1500年。この間に古墳の姿はどのように変貌したのでしょうか。古墳が造られた当時はどんな姿だったのでしょうか。

平成26年1月中旬から2ヶ月間、両宮池の水を抜いて両宮山古墳の墳丘の裾に合計9本のトレンチ（試掘溝）を掘りました。

調査は湧水と崩れやすい土に苦労しましたが、堆積土の下から地山の傾斜面が見つかりました。前方部では比較的古いと考えられる堆積の下に斜面が残っていたため、この斜面が当時の墳丘斜面に近いのではないかと考えられました。墳丘の斜面が崩れないように敷く葺石や、墳丘にたて並べられた埴輪は見つかりませんでした。調査は平成26年度も引き続き実施しますが、両宮山古墳はつくられた当時、前方後円形（鍵穴形）の土壇であった可能性が高いようです。周囲の濠が当時から水濠であったかははっきりしません。

【写真左上】 前方部のトレンチの一つ（T58）

上が墳丘上側で中央部が残存する墳丘斜面

【図左下】 両宮山古墳をつくっている想像図

こうどう そせき 講堂の礎石や

階段を設置

～備前国分寺跡
保存整備工事～



国分寺跡は聖武天皇しやうむてんのうの命によって今から1200年以上前の奈良時代に建てられたお寺の跡で、赤磐市馬屋にあります。

現在、歴史を体感できるよう講堂地区を整備中です。講堂は、お坊さんたちが講義をおこなった建物で、正面約33m、奥行き約16mの巨大なものです。正面中央には長さ17尺(約5.05m)の木製階段を設置し、基壇きだん上に登れるようにしました。

さらに平成23年度の調査で地下から掘り出した奈良時代当時の礎石4個と現代の模擬礎石8個を配置しました。礎石は、建物の柱の下に置かれた石で、建物が傾かないように設置されていました。現地では1200年以上前の実物の礎石と現代につくった模擬礎石を比べてみましょう。実物の礎石は歴史の重みとロマンを感じさせてくれます。

講堂地区の整備完了にはもう少し期間がかかりますが、ご協力よろしくをお願いします。



手前2個の礎石は
実物の礎石



講堂基壇の
中央階段を
整備

ローカルアラカルト vol.①

◆高月村役場の棟瓦◆



まだ記憶のある方もいらっしゃるでしょうか。昭和28年の合併でなくなった高月村の役場に使われていた屋根瓦です。昭和54年に山陽郷土資料館(赤磐市下市)の前に移設され、展示されています。赤磐市へ至る市町村合併の歴史的な遺産です。